

2025.2.13

令和6年度 東播磨・北播磨地域
多面的機能保全向上活動発表会
@三木市文化ホール

新しい解決方法で 農村地域の課題に挑む！



兵庫県立大学 環境人間学部 助教
(一社) ため池みらい研究所 理事

柴崎浩平

1

自己紹介

- 1988年大阪府富田林市生まれ。
- 神戸大学大学院農学研究科 博士（農学）
- **農村社会の望ましいあり方を、組織や人に焦点を当てて研究しています。**
- 研究のスタイルとしては、実践的。**実社会に直接的なインパクト**を与え、**先進的な事例を創造**していくことを目指しています。

研究テーマの大枠

大学や地域の連携 **を** 研究

- どのように連携していけばいい？

大学や地域の連携 **で** 研究

- 連携をしてどんなプロジェクトをしていく？

「（一社）ため池みらい研究所」という市民研究所を地元住民と立ち上げ、
「**自分達が欲しいサービスは、まずは自分達で作る**」
ということを念頭に様々な活動をコーディネートとしています。



facebook



ため池みらい研究所のロマン（ビジョン）



ため池のある暮らしの未来をつくる

問い

どうすれば、ため池サービスを維持/向上していける？

この問いに答えていく試行錯誤のなかで「この地域ならではの」
が生まれる

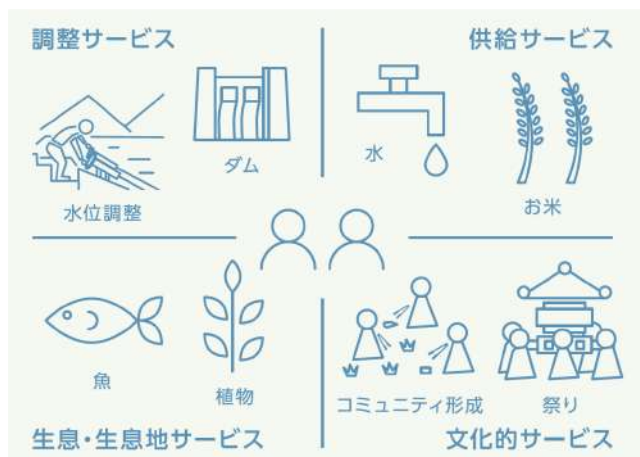


図 ため池サービスの概要

組織概要



ため池みらい研究所

名称 一般社団法人ため池みらい研究所
設立日 2021年9月15日
社員数 7名（設立時）
代表理事 星野 敏/京都大学大学院 農学研究科 名誉教授
会員 14名

問い合わせ先 0794-40-7822
info@tameikemirai.com

ホームページ <https://tameikemirai.com>

アクセス 〒675-0003
加古川市神野町神野690-1
(東播磨フィールドステーション内)
地域の交流・研究拠点となる施設 (2018.6.30 開室)



活動の様子 多世代, 多領域



学生と地域の共同プログラム「ため池アクション」の様子



研究所に関わるメンバーの年に1度の大交流会の様子



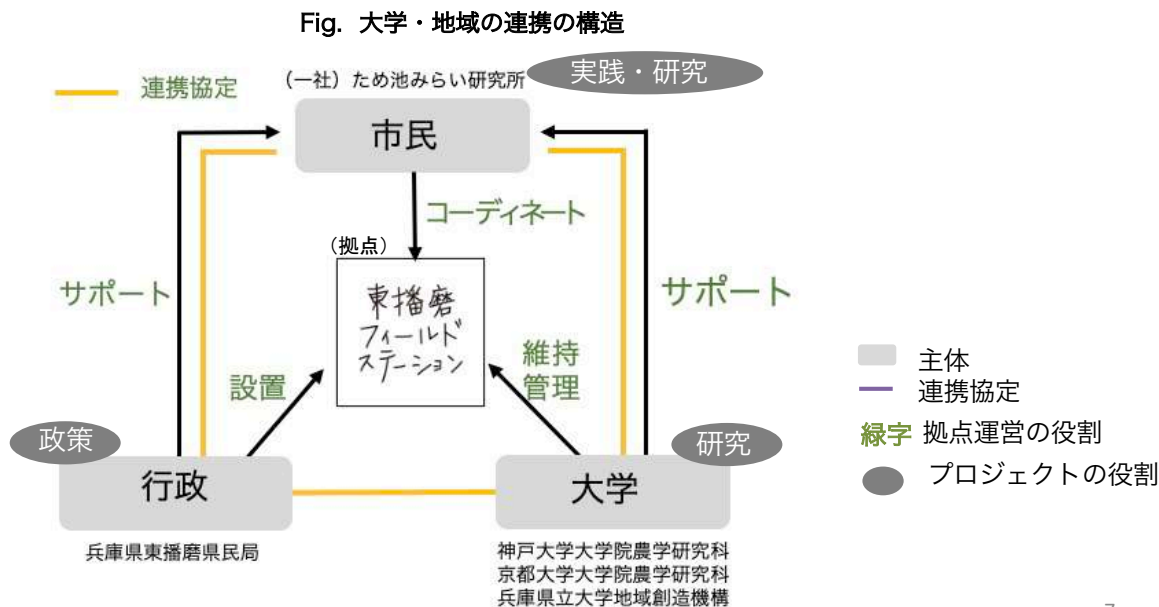
土地改良区を対象とした研修の様子



草刈りを通じた交流の様子

ため池みらい研究所の大きな特徴＜構造＞

- ・ 連携の拠点がある
- ・ 大学と行政，市民（組織：ため池みらい研究所）が連携（5者での連携協定締結）



7

研究所が生まれた背景

東播磨県民局から相談を受け，3大学（神戸大，京都大，兵庫県立大）と県民局で結成

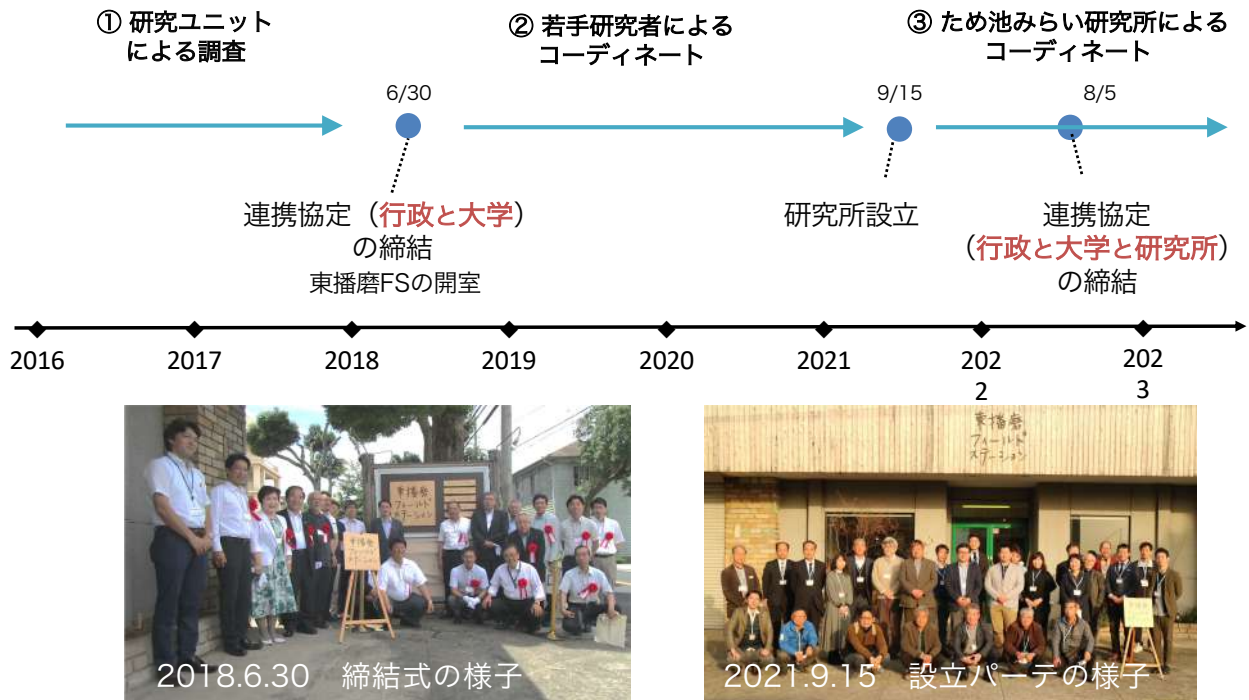
いなみ野ため池ミュージアムなど，
長らくため池の持続的管理に向けた取
り組みを行ってきたが，
これから先，どのような取り組みを
おこなっていくべきか，

行政
(東播磨県民局)

相談
(2016年頃)

研究者
(3大学)

研究ユニットを結成し，問題構造の整理や今後の方向性の整理



ため池みらい研究所の大きな特徴＜構造＞

- ・意思決定主体（役員）として地域住民がコーディネート組織に参画

Fig. ため池みらい研究所の役員（設立時）

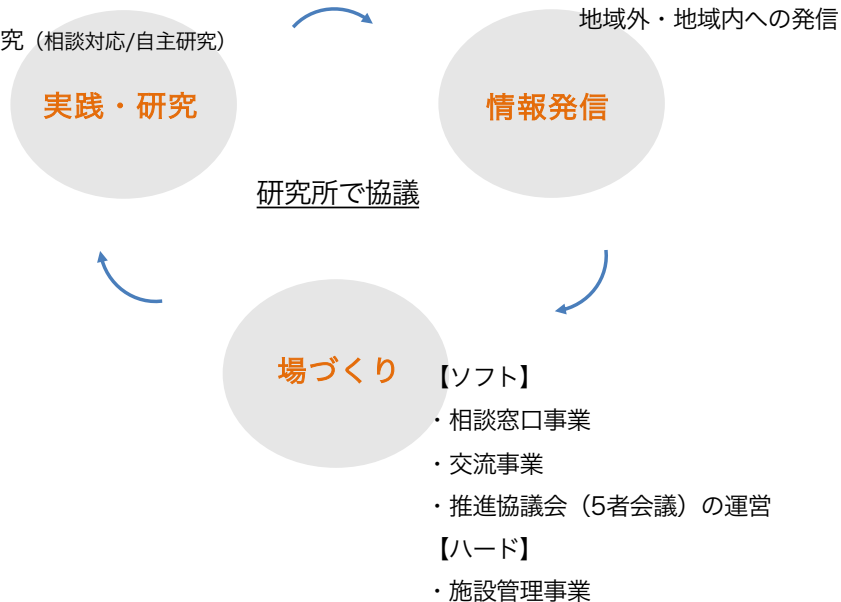
| | | |
|---|--|--|
|  <p>研究者</p> <p>柴崎 浩平 兵庫県立大学 環境人間学部 助教</p> |  <p>農家</p> <p>ため池管理者</p> <p>北本 典比古 原地域づくり協議会</p> <p>丸山 良作 志方東営農組合</p> |  <p>井澤 達文 草谷川土地改良区</p> |
|  <p>製造業</p> <p>龍美 修次 兵神機械工業（株）</p> |  <p>地域づくり コンサルタント</p> <p>佐伯 亮太 合同会社Roof</p> <p>俣野 喬仁 （株）さとゆめ</p> |  <p>町内会</p> <p>坂田 重隆 神野町 町内会連合会</p> |

ため池みらい研究所の大きな特徴＜活動の内容＞

- ・ 場づくりを起点に研究実践を創出
- ・ 研究員（市民など）発のプロジェクトを研究員（市民など）や行政・大学がサポート

大学・地域連携を研究

大学・地域連携で研究（相談対応/自主研究）

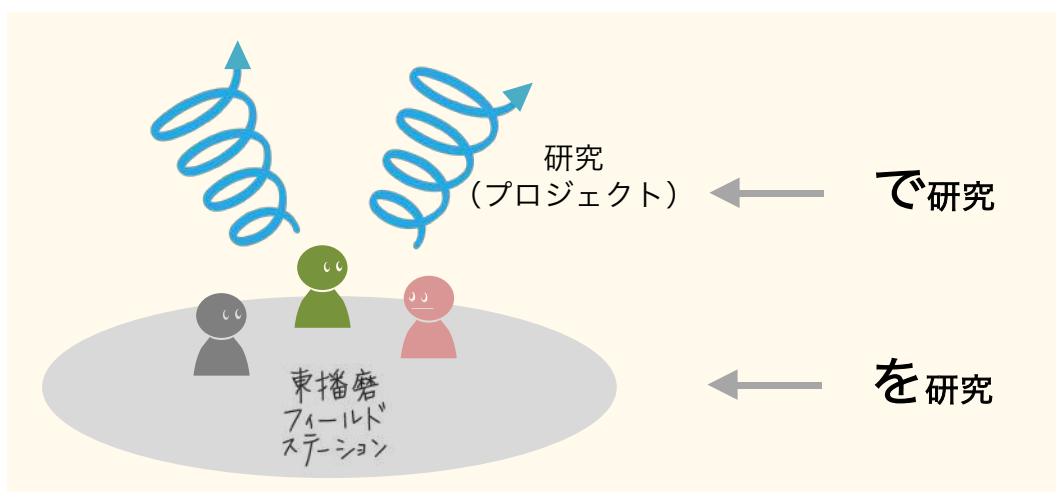


11

研究・実践活動の内容

大学や地域の連携を研究（プロジェクトを創出する構造）

大学や地域の連携で研究（具体のプロジェクトの実施）



そもそもなぜ、「大学や地域の連携を」研究する必要がある？

答え：うまく連携できている事例が少ない/課題が多くある

よくある連携の構造

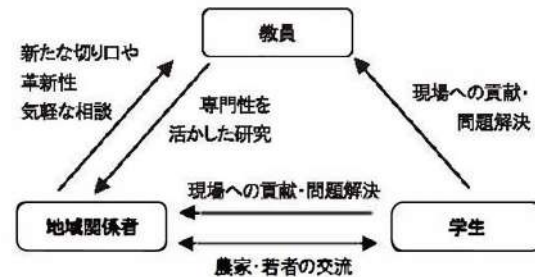
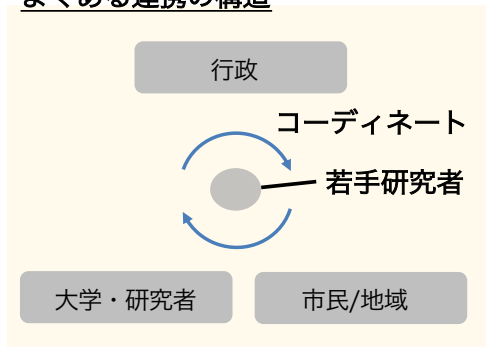


図2. 現状における意識ギャップ (内平ら2009)より引用

- ・主体ごとに求めるものが違う (内平ら2009, 中塚・小田切2016 など)
- ・地域連携の評価の方法
何を評価するか？それぞれ視点が違う
- ・地域連携のコーディネート機能の確保
- ・地域連携に携わる若手研究者の育成 (中塚2017)
コーディネート + 自身の研究

そもそもなぜ、「大学や地域の連携を」研究する必要がある？

これまでの支援（課題解決型支援）の限界

- ・そもそも解決できるのか？解決されたってどういう状態？
そんなすぐに解決しない問題
- ・支援者と被支援者の分断（支援の柔軟性の欠如，相互理解の難しさ）
- ・支援者に求められる「成果」→成果になりやすいことしか対象としない
- ・「成果」の曖昧さ
→活動の結果生まれた成果・・・それは課題の解決に繋がる？

伴走支援：社会福祉領域で生まれた新しい支援の形（2019）

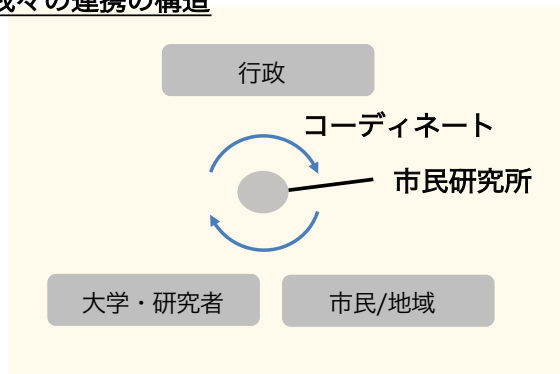
= つながり続けること（一緒に汗をかいて，試行錯誤し続けること）

→ 長い時間をかけて，つながり続けることの価値の再評価

伴走支援や課題解決型支援，組み合わせて考えていく必要

大学や地域の連携を研究（プロジェクトを創出する構造）

我々の連携の構造



メリット

- 互いの主体を知る機会の増加
(違いを知る機会)
- コーディネートする/される力の蓄積

デメリット

- 何するにしても時間がかかる

2つの研究の実施



- 1) 市民研究所を核とした地域連携の可能性の探求
- 2) 地域と大学生の協働による相互変容プログラムの開発

大学や地域の連携を研究（プロジェクトを創出する構造）

1) 市民研究所を核とした地域連携の可能性の探求

Q：市民・地域が躍動するにはどのような連携体制が望ましい？

A：コーディネート主体が育成される仕組み

→ 意思決定主体（役員）として地域住民がコーディネート組織に参画

成果指標（市民の躍動）

【地域で展開されるプロジェクト数】

【プロジェクトに関わるコアメンバー数】

大学・地域連携で研究（相談対応/自主研究）

プロジェクト数

6

のべ 24 名

サブプロジェクト数

19

大学や地域の連携を研究（プロジェクトを創出する構造）

2) 地域と大学生の協働による相互変容プログラムの開発

Q：どのようなプログラムがあれば、地域・学生が、いい方向に変容する？

A：ため池アクションというプログラムの開発

成果指標/視点

【ため池アクション終了後も継続的に地域活動などに関わる人材の数】

【地域（住民）や大学生の変化の質】

ため池アクション

- 大学と連携し、授業として実施
- 農業・農村が抱える課題に関するプロジェクトを、学生3人程のチーム、地域住民、専門家、ファシリテーターと実施。
- 概要

参加学生数 12名ほど（1,2回生～）

実施時期 5～10月（6ヶ月間）

実践フィールド 加古川市, 稲美町



ため池アクション 2023 の内容

ACTION1

ため池と地域めぐりのフォトスポットデザイン
@ 加古川市志方町原

**地域の新たな魅力を発掘。
学生の視点でウォーキングマップ作成**



ACTION2

国産コットンの生産から地域ブランド創造を考える
@ 加古川市志方町広尾東

**綿マヨの商品開発と
クラウドファンディング154%達成。**



ACTION3

若者が関わりやすい、地域農業をデザインしよう！
@ 稲美町下草谷

若者や女性でも作業に関われる仕組みを提案 (IoTを活用した事務作業の軽減)



ため池アクション 2024 の内容

ACTION1

次代に繋げる"ふる里"をつくろう！
@ 加古川市志方町原

関係人口増加を目指し、地域の魅力を広めるべくイベントを実施



ACTION2

「ワーキングホリデー制度 in 広尾東」を作ろう！
@ 加古川市志方町広尾東

**もっと関係性を深めるために、
学生が地域に泊まれる仕組みを構築**



ACTION3

みらいの水路プランを提案しよう！
@ 稲美町下草谷

**地元の方への調査をベースに、
みらいを予測して水路プランを提案**

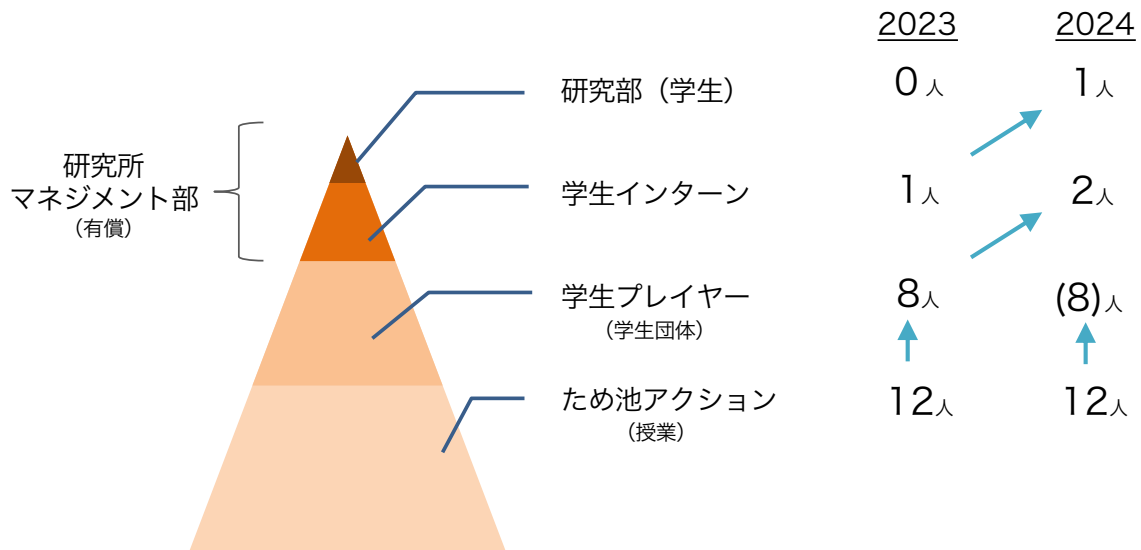


ため池アクション終了後の学生の関わり

・学生プレイヤーの確保

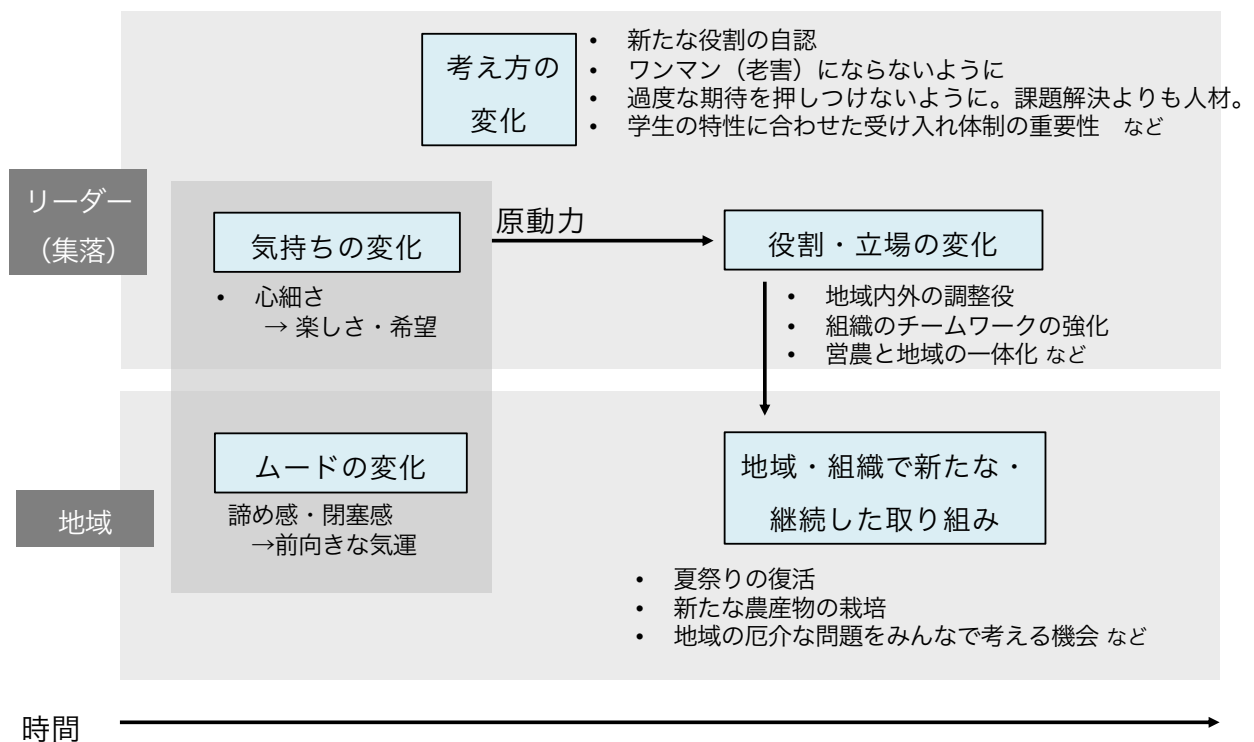
学生が継続して地域を訪問・プロジェクトの継続，学生が学生団体を設立

・ため池みらい研究所の運営に関わる学生インターンの確保



21

協働プロジェクト（ため池アクション）を通じた個人・地域の変化



ため池の課題 学生が発表

稲美町下草谷の住民らに呼びかけ



住民たちに半年間の活動の成果を発表する学生たち＝稲美町草谷

半年間の研究成果披露

大学生が、稲美町などため池や農業、農村の抱える課題に取り組む「ため池アクション」の活動成果を、地域の人たち向けに発表した。同町下草谷地区のため池や水路の保全について学んできた学生グループで、半年間のフィールドワークの内容をまとめ、問題意識の共有を呼びかけた。

ため池アクションは、東播磨県民局によるため池活用研究の拠点「東播磨フィールドステーション」事業の一環。農業関係者や研究者らが中心となり、2021年9月に研究所を設立した。現在、神戸大や県立大、京都大の学生らと連携して活動している。

今年は学生11人が5月から加古川市志方町や稲美町草谷で活動開始。地域住民や研究者、行政職員らと交流を重ねて、高齢化する農村で、地域資源を守り、次世代につなげるための道筋を研究した。

稲美・下草谷地区を舞台にした学生4人は、亀ヶ池と稲荷池の二つのため池を待たずにボランティアで巡り、老朽化などで損壊の恐れがある水路や、管理者の担い手不足について調べた。この日は、災害時のリスクや修繕費不足を知ってもらおうと、地元ため池協議会主催のウォーキングイベントに出向き、意見交換を兼ねて研究成果を発表した。

地元住民からは「何をやるにも人手がいちばん必要で、それがこの地域だけでは難しい」「修繕は行政を待たずにボランティアで

きる人を募ってはためか」などと意見が出た。神戸大学農学部1年の福場結月さん(19)は「行政に丸投げせず地域で考えを温めることはなにより大切。素直な反応を見ることができてよかった」と振り返った。(児玉美友)

大学や地域の連携で研究 (具体のプロジェクトの実施)

地域から寄せられる相談をベースにプロジェクトの立ち上げ・伴走支援を実施



次世代の**ため池**管理人材の育成プロジェクト



草刈りの継続実施に向けた仕組みづくりプロジェクト



農業・地域資源管理の**スマート化**プロジェクト



親水空間の創造プロジェクト



水を育む**里山**を再生するエコビジネスの創出プロジェクト

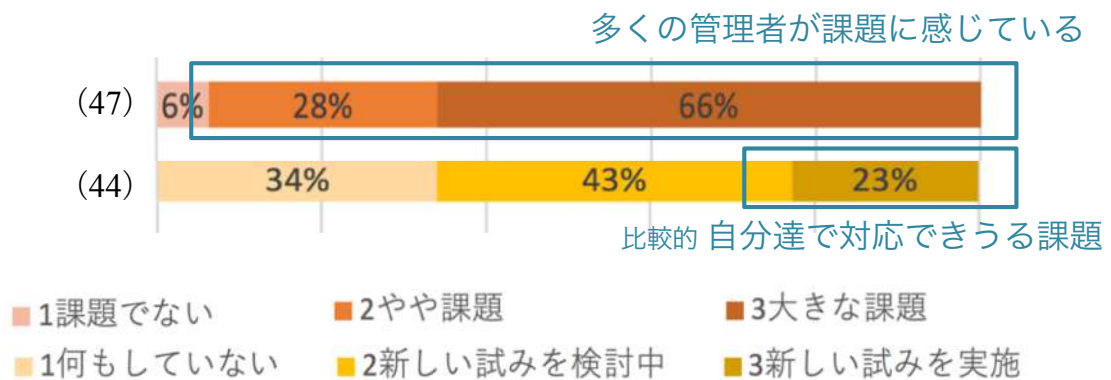


農業・農村の**振興**および担い手確保プロジェクト

主な研究・実践活動 草刈りの継続実施に向けた仕組みづくりプロジェクト

背景：草刈りの継続実施が困難

Q：堤体や畦畔の草刈り作業の継続実施について、
どの程度、課題と認識していますか？どのように対応していますか？



資料：ため池協議会の代表者へのアンケート調査より作成（回収枚数：48（回収率63.2%），配布時期：2019年6月）

考えられる対応策

機械化（省力化）

×

人材の確保（質・量）

×

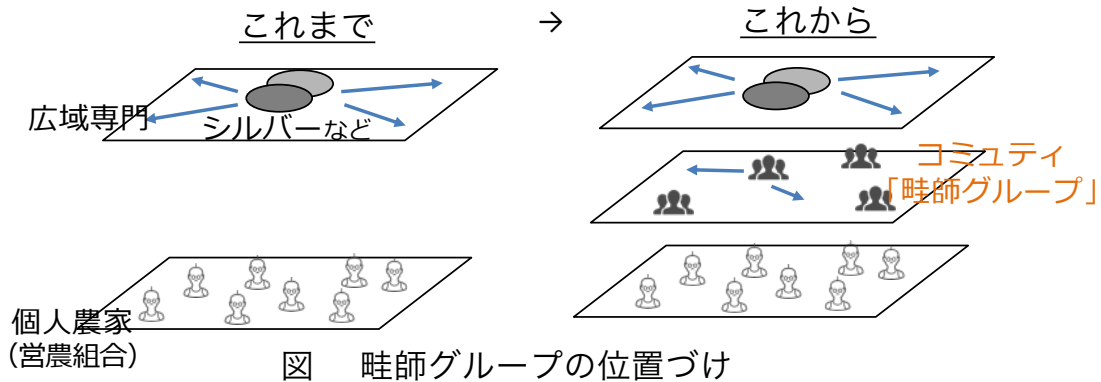
草刈りを行う対象の選定



「正解」はない
→ 組み合わせて考える必要

Answer（仮説）：様々な草刈りグループ（畦師グループ）を作る

草刈りの継続実施に向けた仕組みづくりプロジェクト



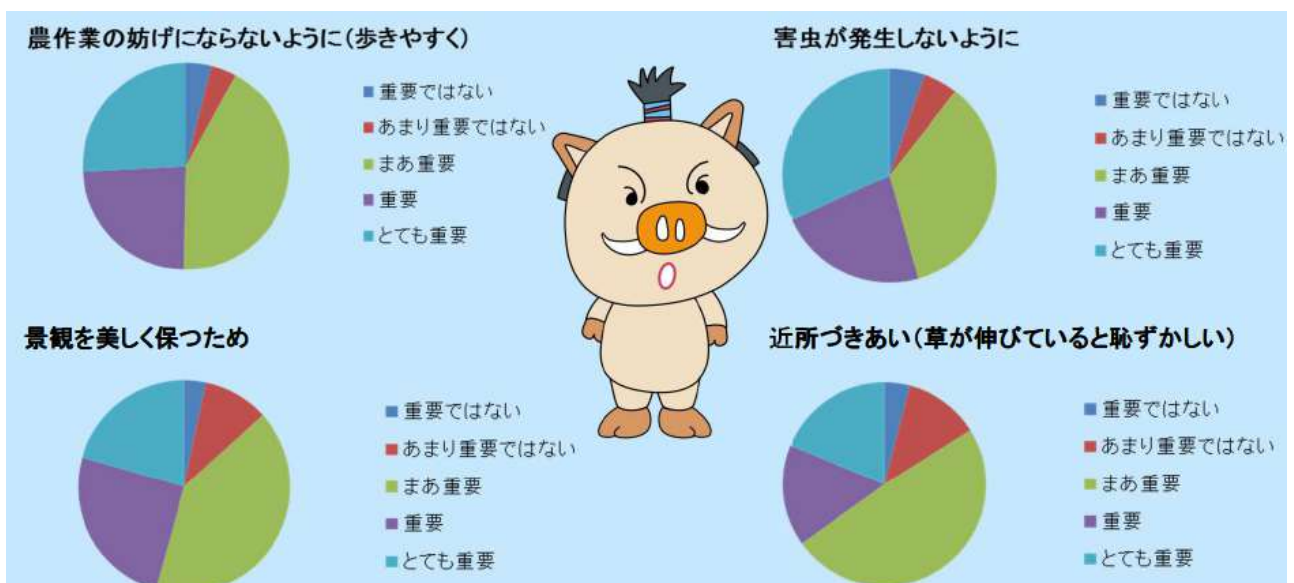
いろんな畦師グループがあってもいい。

いろんな畦師グループが、既存の仕組みを補完することが重要。

こういった環境があれば、いろんな畦師グループが生まれるのか？

27

草刈りを行なう目的（畦畔）って？



景観、近所付き合いも重要。重視してる点が個人で異なる。

生まれた草刈りグループ

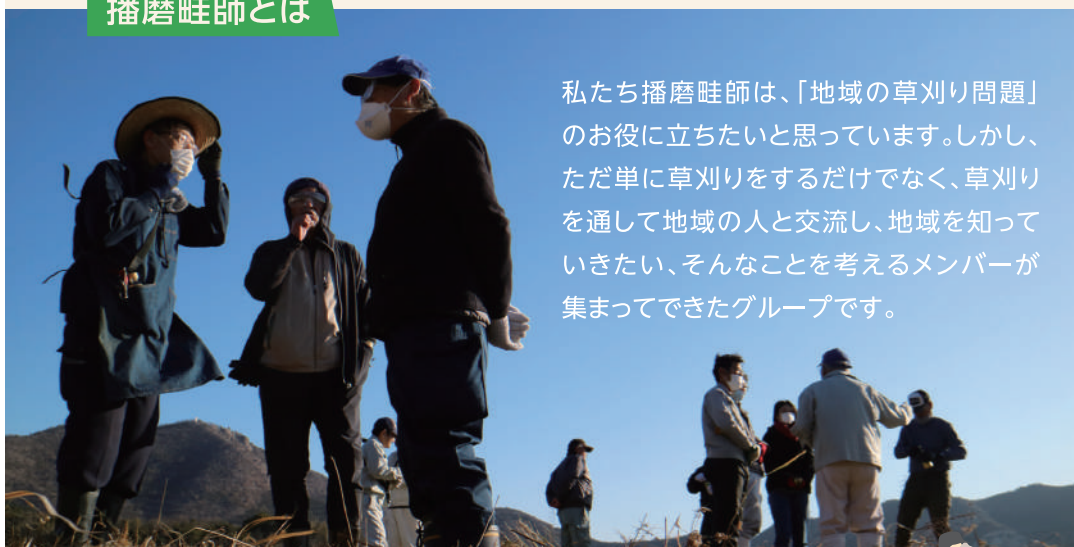
| | | 播磨畦師 | 「原地域づくり協議会」の新たな活動 | CW未来サポート東連合会 (Cut Weed) | 稲美畦師 |
|---------|------|----------|----------------------|-------------------------|----------|
| 刈り方『流派』 | 目的 | 地域とつながる | 農地荒廃の抑止 | 省力化 | 景観の保全 |
| 基本情報 | 設立年 | 2021.6 | 2022.5 | 2020.5 | 2024.6 |
| | 基盤組織 | なし | 多面的機能支払い 交付金受け皿組織 | 営農組合 | 営農組合 |
| | リーダー | 非農家(40代) | 農家(70代) | 農家(70代) | 農家(60代) |
| | 人数 | 30名ほど | 8名 | 12名ほど | 9名 |
| | 年代 | 10～70代男女 | 70代男中心 | 70代男性中心 | 50～60代男性 |
| 作業形態・内容 | 活動範囲 | 東播磨 | 1集落 | 5集落 ほど | 5集落 ほど |
| | 作業内容 | 草刈り 他 | 草刈り, 耕うん | ラジコン式草刈りロボットを用いた草刈り | 草刈り 他 |
| | 報酬 | あり | あり | あり | あり |
| 柴崎の関わり方 | | 設立・伴走支援 | 設立支援/ 相談対応 | 相談対応 | 設立・伴走支援 |

草刈りを通して地域とつながる

播磨畦師

Harima aze-shi

播磨畦師とは



私たち播磨畦師は、「地域の草刈り問題」のお役に立ちたいと思っています。しかし、ただ単に草刈りをするだけでなく、草刈りを通して地域の人と交流し、地域を知っていききたい、そんなことを考えるメンバーが集まってできたグループです。

目的 **地域とつながること (都市農村交流)**

手段 **草刈り + α**

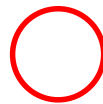
播磨畦師の概要

| | | 播磨畦師 |
|---------|------|----------|
| 刈り方『流派』 | 目的 | 地域とつながる |
| 基本情報 | 設立年 | 2021.6 |
| | 基盤組織 | なし |
| | リーダー | 非農家（40代） |
| | 人数 | 30名ほど |
| | 年代 | 10～70代男女 |
| 作業形態・内容 | 活動範囲 | 東播磨 |
| | 作業内容 | 草刈り 他 |
| | 報酬 | あり |
| 柴崎の関わり方 | | 設立・伴走支援 |

なんでメンバーは草刈りをしてる？



「最低限は欲しいけど、
お金が目的ではない」



「地域貢献意欲」
「仕組みづくりに関する興味」
「学習意欲」 「交流意欲」
「作業の充実感」 「将来への不安」
「知識・技能の活用」

31

播磨畦師の活動風景



播磨畦師の地域とつながる取り組み



播磨畦師の実績

| | | | 2021年度 2021.6~2022.3 | 2022年度 2022.4~2023.3 | 2023年度 2023.4~2023.3 | 2024年度 2024.4~2024.11 |
|---------------------|------|-----------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 実施回数（日数） | | | 13 | 21 | 15 | 22 |
| 作業現場 内訳 | | ため池・水路 | 4 | 3 | 0 | 9 |
| | | 耕作農地・畦 | 0 | 0 | 9 | 8 |
| | | 耕作放棄地 | 5 | 12 | 3 | 5 |
| | | その他 | 4 | 6 | 1 | 0 |
| 依頼単位ご との実施件 数 | 個人 | 9 | 15 | 6 | 7 | |
| | 組織 | 4 | 6 | 9 | 5 | |
| メン バーに ついて | 参加人数 | 参加経験のある人数 | 22 | 18 | 29 | 14 |
| | | のべ参加人数 | 65 | 66 | 105 | 89 |
| | 参加回数 | 1人あたりの平均 | 3.0 | 3.7 | 3.6 | 6.4 |

ため池・水路，耕作農地の数の増加（信用関係の構築）

参加者数の減少と定着。一人当たりの平均参加回数が増えている

播磨畦師の活動を通じた交流がもたらす変化

活動を通じた相互の気づき

活動を始めた当初の地域住民の反応（一部）

- ・都市住民に有償に耐えうる草刈りなんかできる訳ない
- ・そもそも草刈りに興味のある・できる都市住民なんかおるわけがない
- ・どうせすぐなくなるだろう

気づきの例

播磨畦師 「近くに住んでるのにこんな地域課題があったなんて知らなかった」

「地域課題の背景が全然違うことに気づいた」

依頼農家 「若いによう～農業のこと勉強してるな～関心した」

「都市部の人らがなんで草刈りに興味を持ってるのか何となくわかった」

→ 都市住民やかからとかではなく、〇〇さんやから頼む（信用関係の構築）

地域の人材確保

営農組合でバイト（4名），多面的協議会のメンバーに（7名）

地域イベントのサポーター（2地域）

35

事例を1つ作ってみる・共有する重要性

播磨畦師との交流 → 新しいグループの創出に影響



ピア効果（Peer＝年齢・地位・能力などが同じ同僚や仲間）

36

草刈りに興味のある人を増やす取り組み



草刈りフェスの開催（2023/11/13@加古川市）

主催：播磨畦師、ため池みらい研究所

37

場づくり



ため池みらい交流会の開催

- ため池・農村を何とかしたい人の大交流会
- 研究員など（市民、研究者、学生、企業）が行ってきた・いきたい活動を発表
- 自分たちが欲しいサービスを作るために、自分たちで動いていこうというムード作り



2024年2月末



2023年2月末

38

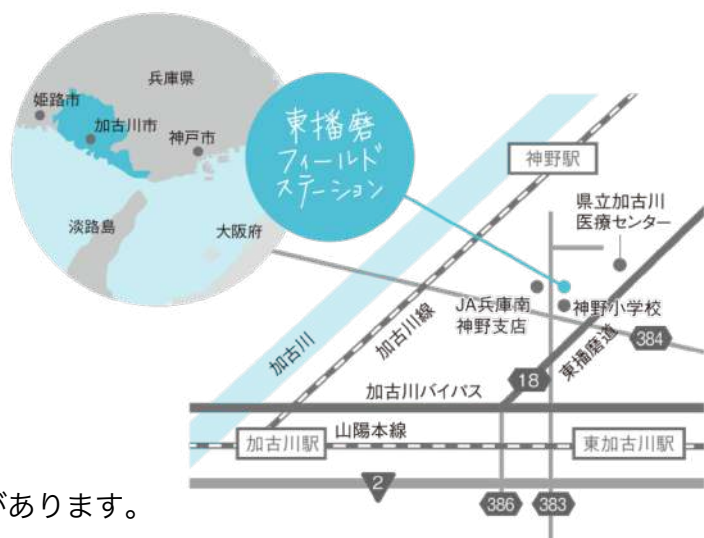


2024年度 ため池みらい交流会

2025.2.28 (金)

JA兵庫南 神野支店

17:30~20:30



是非ご参加ください。

きっと、素敵な出会い・きっかけがあります。

「〇〇〇」したいという人、是非お声がけください。

まずはお問い合わせを。